

家庭裁判所調査官の 採用広報について

令和4年6月 大阪家庭裁判所



本日の 進行予定

1. はじめに
2. オンライン採用広報活動の動画上映
3. 採用広報活動の実情
4. 課題

本日の 進行予定

1. はじめに
2. オンライン採用広報活動の動画上映
3. 採用広報活動の実情
4. 課題

本日の 進行予定

1. はじめに
2. オンライン採用広報活動の動画上映
3. 採用広報活動の実情
4. 課題

実際のオンライン採用広報活動の上映

【工夫している点】

- 「法律」の世界における「行動科学」の知見の大切さを強調
- 調査官の仕事内容と参加者個人の知識・経験とを結びつける
- 職場の雰囲気伝える

本日の 進行予定

1. はじめに
2. オンライン採用広報活動の動画上映
3. 採用広報活動の実情
4. 課題

コロナ禍における採用広報活動

○オンデマンド教材の提供

○オンライン方式の行事の実施 など

令和3年度採用広報活動一覧表

大学（院）・予備校の講義、説明会 庁舎見学依頼

時期：随時実施
内容：依頼内容に応じて企画を個別に検討する。大学の講義では、シラバス（授業計画）を踏まえて、講義で扱っている内容と調査官の職務内容をリンクさせる。事例検討、ロールプレイ等のワークを積極的に組み込む。

オンラインガイダンス

時期：年2回（11月）
定員：各回100人
内容：**職務説明がメイン**。事前申込み不要、途中退室可能。調査官を知ってもらうための入り口企画である。チャット機能を用いて質問を受け付け、広く分かりやすく調査官の仕事伝える。

学生への個別対応

時期：随時実施
内容：大学（院）の講義を受けた学生から、教授等を通じて依頼がある。学生のニーズや疑問を踏まえて担当者を決める（経験年数、担当係、卒業した大学の学部・専攻、家庭生活の状況等）。家族面接室等を見学してもらうこともある。

オンラインミニセミナー

時期：年5回（9月に3回、2月に2回）
定員：各回20人
内容：大阪・京都・神戸合同開催
座談会がメイン。少人数のグループに分かれ、参加者の疑問や不安に応える。相互のやり取りを重視し、調査官の仕事を身近なものとして感じてもらう。

オンラインワークショップ

時期：年2回（12月に1回、1月に1回）
定員：各回18人
内容：大阪・京都・神戸合同開催
業務体験がメイン。一日掛けて、インシデントプロセス方式による非行メカニズムの検討や面接場面のロールプレイ動画を踏まえた子どもの意思の分析・評価を少人数グループで行う。

オンライン採用試験説明会

時期：年3回（3月）
定員：各回300人
内容：大阪・京都・神戸合同開催
受験案内や採用後の流れ等、具体的な進路選択としてイメージを持ってもらうための企画
裁判官と調査官の対談企画を通じて、裁判所全体の調査官の存在意義を知ってもらう。

低い

説明内容の
具体性、専門性
の高さ

高い

（注）本表は、あくまで各活動の企画内容を検討する際の目安であり、活動ごとに参加者を分類するものではない。

その他の工夫や新しい取組

○ラジオ番組の一コマにゲスト出演

○公共の場における配布チラシや掲示ポスター案の作成

本日の 進行予定

1. はじめに
2. オンライン採用広報活動の動画上映
3. 採用広報活動の実情
4. 課題

課題

○オンライン特有の難しさ

——伝えにくさ、反応のつかみにくさ、
情報の取扱いに関する制約など

○採用広報活動のターゲット層への働き掛けの不十分さ

——広く調査官を知ってもらうための方策の少なさ
——潜在的な受験者層を対象とする活動の開拓力

意見交換

●みせ方

——オンラインにおける伝える技術、見る人に
与える印象等に関する工夫や留意点

●攻め方

——潜在的な受験者層に向けた広報活動の
在り方